

# なんたん

No. **37**

**農業委員会だより**

平成30年11月号



農業委員会のうごき.....	2~3
地域農業を支える.....	4
まちかど通信.....	5
特集.....	6~7
なんたんあっちこっち 他 .....	8

平成30年10月20日

八木町 鳥羽秋祭り子ども神輿



**発行 南丹市農業委員会 編集 南丹市農業委員会広報委員会**

〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

■電話 0771-68-0067 ■E-mail [co-nougyo@city.nantan.lg.jp](mailto:co-nougyo@city.nantan.lg.jp)

■FAX 0771-63-0654 ■URL <http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/resource/nougyou.html>

# 農業委員会のうごき

## 管内視察研修を実施しました (黒田営農組合・大西営農組合・竹井営農組合)



▲理事の木村裕さんから説明を受け、施設を見学する委員（黒田営農組合）

平成30年8月23日（木）に、園部町内にある3つの農事組合法人（黒田営農組合・大西営農組合・竹井営農組合）で管内視察研修を実施しました。

この視察研修は、新制度により7月にスタートした農業委員会として、地域農業の推進に貢献する法人を視察し、農業施策の向上について考えることを目的に実施し、33名の委員が参加しました。3法人からは、法人設立のきっかけや目的、「京力農場プラン」の作成や、活動状況の報告を受け、施設や農業機械を見学しそれぞれの委員から、積極的な質問も行われました。

台風20号が、夜半には本市にも接近する予報の中、雨の心配もなく、有意義に研修を終えることができました。

（取材：平野清久 委員）

### ■農業組合法人データ

	設立年月日	人数	作物
黒田営農組合	2010.3	45	水稲、黒豆、小豆
大西営農組合	2014.1	37	水稲、小麦、黒大豆、小豆
竹井営農組合	2016.4	87	水稲、黒豆、水稲用苗



▲代表理事の小島政博さんから説明を受ける委員（大西営農組合）



▲バスで移動しながら説明をする代表理事の面垣和義さん（竹井営農組合）

### お詫びと訂正

前号（No.36）5ページ「八木町出身委員」の、①浅田均 委員の電話番号が変更されましたのでお知らせします。 ⇒ **42-2739**

6ページ「美山町出身委員」にて、⑦坂本宗 委員の担当地区名の記載誤りがございました。お詫びして、訂正いたします。（誤）内久保（上カルノ以南） ⇒ **（正）内久保**

## 小学生たちとの交流

10月10日、園部第二小学校の一年生54名が曇り空の中、5月28日に苗を植え、水やりをして大きく成長したサツマイモの収穫を行いました。サツマイモを傷つけないように少しずつスコップで掘っていくと、大きなサツマイモがいくつも顔を出し、子ども達は大きな歓声を上げながら、イモ掘りを楽しみました。収穫後、子どもたちは温かいふかし芋を口いっぱいにはおぼり、ホクホクとした甘みのあるサツマイモの美味しさと素朴な味に満足した様子でした。(取材：平野清久 委員)



10月15日に美山町和泉にて美山小学校2年生25名と農業委員・農地利用最適化推進委員12名で、サツマイモの収穫を行いました。

6月に苗を300本植え、育ったイモは例年よりも豊作で、子どもたちは笑顔いっぱいイモ掘りを楽しんでいました。

晴天にも恵まれ有意義な活動になり、子どもたちも満足した様子でした。(取材：谷本みどり 委員)

晴天にも恵まれ有意義な活動になり、子どもたちも満足した様子でした。

## 意見書を提出しました



左から西村市長、大沢会長、野村職務代理、上田農政部会長

10月24日、「平成30年度農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書」を農業委員会等に関する法律第38条第1項の規定に基づき、市長に提出しました。

- ①「安定した農業所得の確保に関わる施策について」
- ②「担い手支援について」
- ③「荒廃農地対策と野生鳥獣害対策について」といった、農地等の利用の最適化を効率的かつ効果的に実施するために必要な施策の改善等を意見としてまとめました。

南丹市農業委員会として地元農家の悩みに寄り添い、農地を地域で守る営農組織などとも協議を重ね、担い手の発掘や育成に取り組むなど、地域の状況に応じた活動を積極的に取り組んでいきたいと考えています。



長い人生、準備は今から。  
将来への備えは、家族ひとりひとりに対して。

# 農業者年金へ加入しましょう

- ★農業者年金は、国民年金(基礎年金)に上乗せした任意加入の公的年金制度
- ①積立方式(確定拠出型)で少子高齢化時代に強い年金です!
- ②生活設計や経営状況に合わせて(2万円から6万7千円まで千円単位で)保険料設定が可能です。
- ③終身年金であり、80歳前に亡くなられた場合は、死亡一時金があります。

★加入資格 ・国民年金の第1号被保険者。※(保険料の免除者は除く) ・年間60日以上の農業従事者。  
・60歳未満の方。

# 地域農業を支える

あの人この団体!

地域農業の発展を目指し、力強く活動する  
団体・個人を紹介します。

## 野条営農組合

(八木町野条)



私たち野条営農組合は、平成28年3月5日に設立。ほ場整備された農地を有効活用して、生産性の高い農業経営と組合員の経済的負担の軽減を図るため、大型機械導入による水稲作の基幹作業受託を中心に、事業を進めつつあります。



◀野条営農組合のみなさん

野条地区は八木町の北部に位置しており、平成5年頃から隣接の3地区と共同でほ場整備事業が進められ、地域内を流れる天井川の掘下げ改修や府道のバイパス整備等の公共事業と併せて工事が実施され、平成28年に完成しています。

当時、地区内で検討されていたほ場整備事業の面積は30アールでしたが、途中で制度が変わり、平成9年から担い手の育成に重点が置かれ、標準区面積に1ヘクタールが加わるとともに、将来の担い手としての農業者及び生産組織に農地を集積することが規定されました。

しかし、水稲を中心とした個人営農が長らく続けられてきたことから、平成6年に実施された農家に対するほ場整備事業の意向調査では、希望する区画面積を30アールとする回答が半数を超えており、それは、当時多くの農家が兼業による家族営農を想定していたためと思われる。そのため、各農家には生産組織の立ち上げや1ヘクタール区画田の設定について、制度上やむを得ず実行しなければならぬものとの思いがありました。四半世紀が経過しようとする現在では、農業従事者の高齢化が進行する中で、地域の農業を維持していくためには受け手としての生産組織の確立が必要であるとの積極的な思いに変わり、営農組合の立ち上げとなりました。

営農組合は、組合員の高齢化や担い手の確保・育成といった課題や、設立して2年程しか経っておらず、体制や設備面もまだまだ不十分な状況ではありますが、地域農業の担い手として認められるよう努めているところです。

(文書：松本芳夫さん 取材：松本吉弘 委員)

# かわべ紅市 (園部町船岡)

開催日時：第1・3月曜日 (月2回) 9時半ごろ～  
場所：旧川辺小学校横の府道沿い駐車場にて

住民が集うことのできる場の提供を目的として、「かわべ紅市」を立ち上げました。  
当初は、近所の人や友人に野菜をおすすめするよう  
な気持ちで始めましたが、今では出荷者よりも先に消費  
者の方に待って頂いている時もあり、びっくりしている  
ような状況です。また、生産者グループは売る人、買う  
人、集う人、みんなが最高の仲間という気持ちで「ベス  
トフレンド紅」と命名し、川辺地域に住む女性を中心に  
構成され、野菜の苗を分け合ったり、栽培方法を教え  
合ったりしながら、賑やかな雰囲気です。活動していま  
す。季節の野菜は、常時20〜30種類ほど販売しておりま  
すので、お近くにお越しの際は、ぜひ一度、お立ち寄りくだ  
さい。

(文書：片山範子さん 取材：平野清久 委員)



ベストフレンド紅の方たち

平成27年  
3月に川辺  
地区唯一の  
小学校が閉  
校となり、  
住民同士の  
関わりや出  
会う機会が  
減少するよ  
うになりま  
した。そこ  
で、安心で  
安全な野菜  
の販売を通  
じて、地域

## ～築150年古民家で農家民宿～ 農家民宿「はなぶさ」 (美山町島)



▲農業の体験をしている学生



▲農家民宿はなぶさ

電話：0771-75-1190

き、田畑で農業実習をする学生さん達の姿を見る事で地域にも  
元気をもらい開設して良かったと思っていると力強く語って頂  
きました。

(取材：藤原忠司 委員)

美山地域は棚田や、かやぶき民家が存在  
し、清流由良川が中央を流れる自然豊かな  
京都丹波高原国定公園の中心地にあり、自  
然の美しさを求めて国内外から多くの観光  
客が訪れています。  
農家民宿「はなぶさ」を経営する倉内裕  
さんは、平成27年から小・中学生や高校生  
を対象とした農業と田舎暮らし体験が出来  
る教育民泊を始めました。受入れ当初はど  
のような学生さんが来るのか不安でした  
が、経験を重ねるうちに息子や娘のように  
思えるようになり、人との交流の大切さに  
目覚め、今では一般客の受入れも始めてい  
ます。人口減少が進む中、都市交流がで

# 特集



## 里の文化と暮らし

### 静かな里山での暮らしにあこがれて

日吉町上胡麻

原田 はらだ

秀次 しゅうじ さん  
享子 きょうこ さん



原田秀次さん・享子さん夫妻は、定年を期に長年の夢であった、「山間の静かな里での暮らし」を叶えたく、インターネット等で調べ、日吉町上胡麻に移住してきました。昔話に出てくるような心休まる風景に惹かれたそうです。

さいたま市に住んでいたころから、マンションのベランダでプランターを並べて野菜作りをしていたものの、本格的な農業は移住してからが初めてで、近所の人から教えていただいた土寄せ、土壌水分の管理や病害虫駆除など知らないことばかりではありますが、毎日が楽しいとおっしゃっていました。いつも二人で作業をされているとのこと、私が訪問したときも二人そろって農作業をされていました。

獣害対策のためにしっかりとネットを張ってはいるものの、それでも被害はあり、一番驚いたのは、昼休憩中のちょっとした隙に鹿が畑に入り被害にあったことだと話してくれました。

今は黒大豆や小豆の手入れに追われているとのことであり、それら以外にも店へ行って見たもの、珍しいものは何でも買って植えているとのことでした。

(取材：谷口定己 委員)



農作業中の原田さん夫婦



獣害防止のネット

# 女性農業者の活躍!

## 憧れの田舎暮らしと農業

おわた あやみ  
**太田 彩美さん (日吉町)**



▲太田彩美さん

私は東京で生まれ育ちましたが、長い間憧れであった田舎暮らしを実現するために、「南丹市」という地にきました。ここに来て感じた事は、都会の人工物に囲まれた世界では決して感じることでできない素晴らしい自然や温かい人々、自然と共に生きる知恵や伝統が今なお残る素晴らしい場所だという事でした。

当初、都会から見知らぬ土地に来て何も出来ない私に、本当に多くの方々が手を差し伸べて下さり、今では何とか野菜やお米を育て、おばあちゃんの味であるおはぎや納豆餅などの作り方を教えてもらい、野菜や総菜を売る事までも出来る様になりました。

農業は悪天候や獣害被害等、自然の厳しさを痛感するとともに、自身も未だに挫折や反省が尽きませんが、自分で手塩にかけた野菜が日々育ち始めて収穫して食べた時のあの喜びとこみ上げる想いは一生忘れられません。現実的に女性一人の力だけで農業で生計を立てる事は生半可で叶うものではないかもしれませんが、地域と関わりながら生きていくために自分なりに出来る事はないかと考え、食品加工場を作つて南丹市の伝統的な名産品や料理を地域の方々と一緒に生産して残していく活動や、それらを広く知って貰うために東京にマルシェを出す活動等を現在行っています。現実は大変厳しいですが、学びを通し地域と共に生き方をみつけていきたいと思っています。

(文書：太田彩美さん 取材：宇野十三治 委員)

## 日本茜に魅せられて

わたべ やすこ  
**渡部 康子さん (美山町)**

「太陽が滲にじんでいるような黄みがかつた赤」、この色を出すことのできる日本茜は染色家の間ではまぼろしの植物とされているほど珍しい植物であり、染料店で購入できる茜は西洋アカネやインドアカネといった外国のもののみです。ところが、その植物がなんと南丹市に自生していることを知ったのが7年前です。早速、探して掘り出して染めてみたら、とても美しい色に染まりました。

しかし、自生しているものは採取が大変であるため、自分で栽培することになりました。日本茜は雑草ではあるが、気難しい草でなかなか大きくなってはくれません。そこに苦労しました。現在、粗放栽培※注の実験で美山町に3か所ほ場があります。栽培には3年かかりますが、鹿もイノシシも食べないので、獣害対策の必要はなく、遊休農地を活用して栽培してみるのもいいのではないかと思います。

(文書：渡部康子さん)

※注：作物を放任気味に栽培すること。



▲日本茜の葉



▲日本茜で染めたスカーフ

# なんたん あっちこっち

とにかく広い南丹市。  
南丹市のあちらこちらでは、その地域ならではの面白く、  
楽しい、また興味深い取り組みがされています。  
そんな南丹市の、**あっちこっち**のできごとを紹介します。

## 東胡麻区文化祭&敬老会(日吉町胡麻)

9月15・16日に東胡麻区で文化祭を、17日には敬老会を東胡麻区会議所で開催しました。敬老会の舞台では、地域の高齢者が歌や腹話術などの特技を披露し、参加者は昼食をとりながら楽しい時間を過ごしていました。  
文化祭では、地域の人の手作り品である、フワワーアレンジメントや食用廃油石鹸等が展示されていました。  
また、区民もほとんど目にしたことのないふる里の文化財を見聞してもらおうと、日吉神社の中にある「奥ノ院」の3体の仏像や仏画の掛け軸を展示しました。搬出作業の時に木板が発見され、そこには奥ノ院の御堂が明治3年に建立されたことや、元々は「神宮寺」という名前のお寺だったということが判明しました。  
区単位で実施されている文化祭と敬老会を、今回発見された貴重な文化財と共に、地域の文化として守っていききたいと思いました。



敬老会のようす



奥ノ院の仏像

(文書・芦田俊孝さん  
取材・宇野十三治 委員)

## 委員ぶらり旅

旅人：谷口定己 委員

### 光悦寺 (京都市北区鷹峯)

秋の稲刈りを目前に、台風や長雨に悩まされましたが、なんとか終え、疲れた体を癒そうと、久々の秋晴れの日 にぶらりと京都市北区へ一人旅に出ました。ちょうど1年前にも訪れましたが、まるで昨日のことのように思い出し、月日の流れの早さを感じました。  
光悦寺の表参道に足を踏み入れると石畳の隙間から見える苔や、両脇の生い茂った木々に囲まれるとまるでタイムスリップしたかのような空間へと吸い込まれました。回廊をくぐり、少し歩けば特徴ある垣根があり、その奥には茶室も見えます。垣根は丁寧にも組み合わされており、その芸術性に職人技を感じました。  
実はここ光悦寺は、茶室や垣根の名所として有名であるが、様々な工芸に携わる多くの職人と共に住居を構え、今でいう職人団地でもあったそうです。わずかな時間でしたが、鷹峯三山から差し込む夕日に見送られながら光悦寺を後にしました。



名所でもある垣根

秋の稲刈りを目前に、台風や長雨に悩まされましたが、なんとか終え、疲れた体を癒そうと、久々の秋晴れの日 にぶらりと京都市北区へ一人旅に出ました。ちょうど1年前にも訪れましたが、まるで昨日のことのように思い出し、月日の流れの早さを感じました。  
光悦寺の表参道に足を踏み入れると石畳の隙間から見える苔や、両脇の生い茂った木々に囲まれるとまるでタイムスリップしたかのような空間へと吸い込まれました。回廊をくぐり、少し歩けば特徴ある垣根があり、その奥には茶室も見えます。垣根は丁寧にも組み合わされており、その芸術性に職人技を感じました。  
実はここ光悦寺は、茶室や垣根の名所として有名であるが、様々な工芸に携わる多くの職人と共に住居を構え、今でいう職人団地でもあったそうです。わずかな時間でしたが、鷹峯三山から差し込む夕日に見送られながら光悦寺を後にしました。



光悦寺

## 編集後記

今年は台風21号による農作物への被害も出ています。被害に遭われた方には心よりお見舞い申し上げます。八木町鳥羽地区で今年も秋の実りの感謝と子どもたちが元気に成長することを祈願子ども神輿の巡行を行いました。(田村 好司 委員)

**地域の食と農業の情報紙『なんたん』**  
自慢の農作物・地域の積極的な取り組み・地元野菜の食べられるお店など、すてきな情報をお待ちしております。  
農業委員会事務局 電話：0771-68-0067

- |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |        |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--------|
| 藤谷 | 倉本 | 梅内 | 谷口 | 岩城 | 宇野 | 松本 | 福嶋 | 廣瀬 | 川勝 | 吉見 | 寺尾 | 田中 | 東野 | 田村 | 平原 | ◆広報委員会 |
| 原  | 本  | 内  | 口  | 城  | 野  | 本  | 嶋  | 瀬  | 勝  | 見  | 尾  | 中  | 野  | 村  | 野  |        |
| み  | み  | み  | み  | み  | み  | み  | み  | み  | み  | み  | み  | み  | み  | み  | み  |        |
| 忠  | 義  | 義  | 定  | 久  | 三  | 吉  | 重  | 芳  | 有  | 義  | 靖  | 裕  | 好  | 清  | 久  |        |
| 司  | 明  | 明  | 己  | 雄  | 治  | 弘  | 樹  | 仁  | 正  | 延  | 二  | 和  | 司  | 久  |    |        |